



はら ひろみつ
原田洋光さん

プロフィール

31歳。豊玉町千尋藻出身、在住。3人姉弟の3番目、長男として生まれる。小さいころから漁師である両親の姿を見て育ち、豊玉高校卒業後、父と共に船に乗る。奥様とは、漁協青年部の福岡旅行中に幼馴染みの紹介で知り合い、20歳で結婚。漁師になって11年、千尋藻のイカ一本釣り漁師の若手後継者の一人。愛船は「第八漁勝丸」。今も父と二人で大漁を求めて海へ出る。娘2人、息子1人の父。実家に両親と祖母との3世代同居。取材には奥様とご両親もご一緒くださり、話が弾みました。

ご両親とも大変お元気ですね。
僕が高校の時まではずっと父と母二人で船に乗っていました。今も僕が一人の時には母が乗ってきたりします。

うちはなぜかよく取材を受ける家で、「ダーツの旅」ってテレビ番組があるでしょ？残念ながらカットされましたけど、母が取材を受けたんですよ(笑)。祖母は「からくりビデオレター」に出たことがあるし、中学生のバスケットの試合で、原田五月杯^{さつき}ってあるでしょ？全日本代表選手だった叔母なんです。今回の取材も何かの縁ですかね(笑)。

小さいころから両親が漁をする姿を見てきて、自然と漁師に？
そうですね。上が姉2人ですし、生まれると同時にイカ釣り漁師になるのは決まっていたんだと思います。僕も海が好きだったんで、魚釣りに行ったり船に乗せてもらったり。もう漁師になる気ではなかったね。

好きな場所、落ち着く場所は？
家のすぐ前が海ですし、やっぱり海が見えるところがいいですね。1年ほど住んだ福岡は山やビルが多かったので、やっぱり寂しかったです。

奥様のご実家は？

美津島の尾崎です。実家の船は以前「スーパー漁師列伝」というテレビ番組で、シイラ漬^{しいら}け漁の船として紹介されました。挨拶に行った時は義父がとにかく怖くて。でも、魚種は違っても漁や船の話が合い、お酒を飲みだすと意気投合して(笑)。イカが4〜5月頃になると漁獲^{とくわ}が落ちるので、その間マグロの餌やりについて行ったり、シイラ漁の船にも乗ったりしたんです。

ご家族もご親戚も多いですが、大家族の良さは？

やっぱり楽しいところですね。たまには黙ってくれというくらい賑やかです。大変なのは子どもたちを迎えに行ったり賄い^{まわい}を準備してくれる母かもしれない。助かっています。しばらく漁に出ても家族がたくさんいますから、安心して漁をするのみです。

どこでも漁獲量が減ったという声を聞きますね。

漁が減ったうえに燃油高騰^{たか}。魚価も上がってこればいいのですが、差は開くばかりでつり合いが取れないんです。この現状で、いかに経費削減しながら商売していくか：難しいところ

です。このままの状況が続けば漁師を辞めるといふ船も出てくると思うので、どう乗り切るかが問題。一番燃料を使うイカ釣りと並行して、ヨコワやブリを釣ったりしていくのか、今が考^{かんが}え時なんです。後継者である同年代の漁師が集まると、今後の仕事の仕方について自然と話が始まります。

そうして悩みも話しつつ、酒宴は夜も更けて…。

更けるどころか夜も明けますよ(笑)。漁師の地区はどこもそうでしょうけど、釣れるのが一番嬉しいですが、釣れなかったときはそれで「**間直し**^{まな直し}」して。まだ釣れなかったら「**間直し**」が足らん^{たり}って、結局ずっと酒飲みです(笑)。そうして多くの世代と一緒に飲みながら漁の方法を交換し合って、得たアイデアに自分なりの工夫をして漁に生かしてみてもできま^ますから、酒飲みも勉強です(笑)。

*間直し：不漁が続いたときに行う縁起直しのための行事。神社にこもったり盛大な酒宴をしたりする。験直し。

毎回、登場してくださった方、次の方をご紹介いただくコーナー。次回は豊玉町千尋藻在住の吉村高浩さんです。お楽しみに。